

# 三菱UFJフィナンシャル・グループ 株主の皆さまへ

第6期第1四半期(平成22年4月1日~平成22年6月30日)

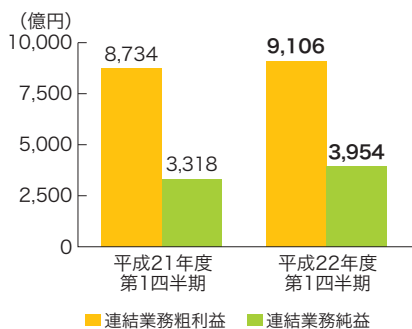


Quality for You   
MUFG

## 決算のポイント

- 連結第1四半期純利益(平成22年4月～6月)は、業務粗利益の増加に加え、営業費の減少および与信関係費用の改善などから、前年同期比904億円増益の1,663億円
- 貸出金は、国内外法人貸出の減少により平成22年3月末比2.3兆円減少。預金は、個人預金が増加した一方、国内法人預金が減少したことから平成22年3月末比1.7兆円減少
- 連結自己資本比率は、平成22年3月末比0.14ポイント低下の14.73%

### 連結業務粗利益・連結業務純益



### ■ 損益の状況

連結業務粗利益は、市場金利の低下や貸出金の減少に伴い資金利益が減少しましたが、市場関連収益の大幅な増加を主因として、前年同期比371億円増加の9,106億円となりました。

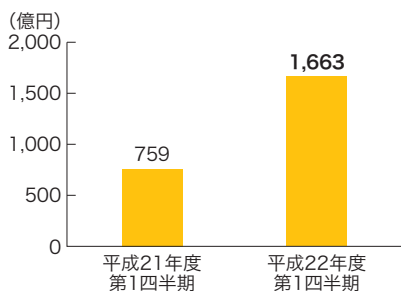
営業費は、引き続きグループを挙げて経費削減に取り組んだ結果、前年同期比264億円減少の5,151億円となりました。

この結果、連結業務純益は前年同期比636億円増益の3,954億円となりました。

与信関係費用総額は、経済情勢の持ち直しに伴い貸倒引当金繰入額が減少したことを主因に、前年同期比1,195億円減少の703億円と大幅に改善しました。三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の単体合算で前年同期比512億円減少したことに加えて、その他の子会社でも改善しました。

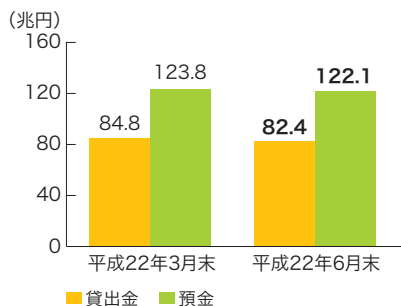
以上の結果、連結四半期純利益は、前年同期比904億円増益の1,663億円となりました。

### 連結四半期純利益



(注)業績説明に使用している計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。従って、表中のある項目の計数と他の項目を加減計算した結果とが一致しないことや、説明文中の増減数値とグラフ・表中の計数を加減計算した結果とが一致しないことがあります。

### 貸出金・預金

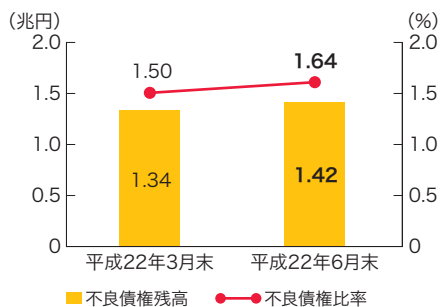


### 貸出金・預金の状況

貸出金は、資金需要の低迷により国内外における法人貸出が減少したことを主因に、平成22年3月末比2.3兆円減少し、82.4兆円となりました。

預金は、個人預金が増加した一方、国内における法人預金が減少したことを主因に、平成22年3月末比1.7兆円減少の122.1兆円となりました。

### 不良債権残高・比率

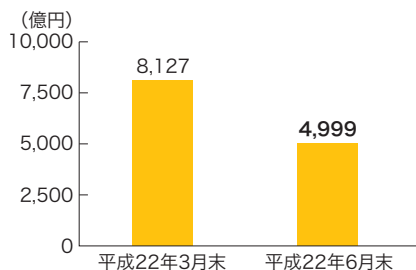


### 不良債権残高・比率の状況

不良債権残高\*は、平成22年3月末比736億円増加の1.42兆円となりました。不良債権比率\*は、平成22年3月末比0.13ポイント上昇の1.64%となりましたが、引き続き低水準を維持しています。

\*三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の単体合算

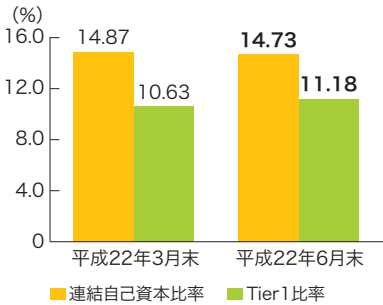
### 有価証券の含み損益



### 有価証券の含み損益の状況

株式相場の下落に伴い国内株式の評価損益が減少したことを主因に、有価証券の含み損益(その他有価証券評価差額)は、平成22年3月末比3,127億円減少し、4,999億円の含み益となりました。

## 連結自己資本比率・Tier1比率

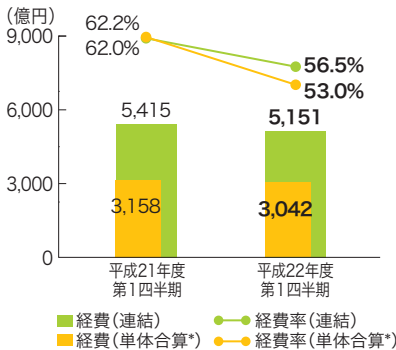


## ■ 連結自己資本比率・Tier1比率の状況

連結自己資本比率は、平成22年3月末比0.14ポイント低下の14.73%となりました。一方、Tier1比率は平成22年3月末比0.54ポイント上昇し11.18%となりました。

## 平成22年度第1四半期決算に関するQ&A

### 経費の推移

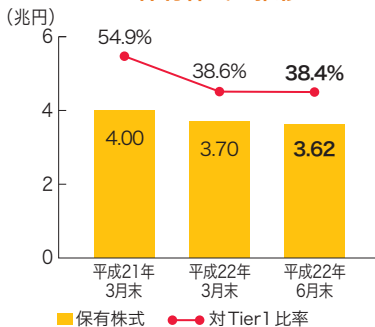


**Q** 経費(営業費)削減の状況について説明してください。

**A** 連結経費は、引き続きグループを挙げて経費削減に取り組んだ結果、前年同期比264億円減少しました。連結経費率は業務粗利益の増加もあり、前年同期比5.4ポイント減少の56.5%となりました。引き続き一層の経営効率化に取り組んでいきます。

\*三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の単体合算

### 保有株式の推移



**Q** 保有株式\*の削減状況について説明してください。

**A** 株価変動の影響を抑制するため、お客さまのご理解をいただいた上で保有株式の削減を進めています。平成22年度第1四半期には約840億円の株式を売却しました。今後も削減に向けた努力を続けていきます。

\*その他有価証券で時価のある国内株式の減損後取得原価。三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の単体合算

## 損益の状況(連結)

(単位：億円)

	平成21年度第1四半期 (平成21年4月～6月)	平成22年度第1四半期 (平成22年4月～6月)
<b>連結業務粗利益</b> (信託勘定償却前)	<b>8,734</b>	<b>9,106</b>
資金利益	5,552	5,016
信託報酬+役員取引等利益	2,577	2,482
特定取引利益+その他業務利益	604	1,606
<b>営業費</b>	<b>5,415</b>	<b>5,151</b>
<b>連結業務純益</b> (一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前)	<b>3,318</b>	<b>3,954</b>
<b>臨時損益(△は費用)</b>	<b>△ 1,689</b>	<b>△ 1,360</b>
うち与信関係費用	△ 1,632	△ 1,100
うち株式等関係損益	302	11
<b>経常利益</b>	<b>1,363</b>	<b>2,991</b>
<b>特別損益(△は損失)</b>	<b>29</b>	<b>△ 113</b>
<b>法人税等合計</b>	<b>465</b>	<b>955</b>
<b>少数株主利益</b>	<b>167</b>	<b>258</b>
<b>連結四半期純利益</b>	<b>759</b>	<b>1,663</b>
<b>与信関係費用総額(△は費用)</b> <small>与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益内)+貸倒引当金戻入益+偶発損失引当金戻入益(与信関連)</small>	<b>△ 1,898</b>	<b>△ 703</b>

## 資産・負債の状況(連結)

(単位：億円)

	平成22年3月末	平成22年6月末
<b>資産の部</b>	<b>2,041,069</b>	<b>2,047,444</b>
うち貸出金	848,806	824,925
うち有価証券	639,644	660,375
<b>負債の部</b>	<b>1,928,074</b>	<b>1,935,787</b>
うち預金	1,238,919	1,221,757
<b>純資産の部</b>	<b>112,994</b>	<b>111,656</b>

## 連結自己資本比率の状況(第一基準)

(単位：億円)

	平成22年3月末	平成22年6月末
<b>自己資本比率</b>	<b>14.87%</b>	<b>14.73%</b>
<b>Tier1比率</b>	<b>10.63%</b>	<b>11.18%</b>
<b>自己資本</b>	<b>139,917</b>	<b>134,669</b>
<b>Tier1</b>	<b>100,096</b>	<b>102,246</b>
<b>リスク・アセット</b>	<b>940,813</b>	<b>914,175</b>

## 日本銀行の新貸出制度を活用した新融資制度スタート

平成22年8月、三菱東京UFJ銀行は、日本銀行の「成長基盤強化を支援するための資金供給」制度を活用した総額1,500億円の貸出ファンドを設立、募集を開始しました。

このファンドは、「環境・エネルギー事業」「社会インフラ整備・高度化」「アジア諸国等における投資・事業展開」など成長が期待される分野におけるお客さまの事業にご融資するものです。同行が日本銀行から資金を借り入れる利率(平成22年7月末現在で0.1%)を、そのままご融資の基準金利とすることで、お客さまは従来比低い金利でお借り入れいただけるようになりました。

また、このファンドは、企業の規模にかかわらず、中堅・中小企業から大企業まで幅広いお客さまにご利用いただけます。これからも銀行の社会的役割である円滑な資金供給機能を着実に果たしていきます。



## ブラジルセミナー開催

平成22年6月、三菱東京UFJ銀行は企業のお客さま向けに「ブラジルセミナー」を開催しました。

当日は、ブラジル三菱東京UFJ銀行(ブラジルBTMU)、三菱UFJリサーチ&コンサルティングのほか、ブラジル大使館および同行の提携先である地場大手のブラデスコ銀行からも講師をお招きし、ブラジルの経済や投資環境などの最新情報をご提供しました。同国は、資源・消費大国として世界の注目を集めるとともに、平成28年の夏季オリンピック開催国として大規模な公共設備投資の拡大も見込まれています。

三菱東京UFJ銀行では、ブラジルBTMUやブラデスコ銀行との提携により、企業のお客さま向けに貸出から投資銀行業務まで幅広いサービスをご提供しています。また、日本においては、ブラデスコ・グループとの提携を活かし、ブラジル関連の投資信託をMUFGグループ各社にて販売しています。



## 「開かれた銀行」をめざし、荻窪支店リニューアルオープン

平成22年6月、三菱東京UFJ銀行の荻窪支店（東京都杉並区）が、荻窪駅前支店と統合し、リニューアルオープンしました。

新しい店舗は、お客さまや地域の皆さまにお気軽にご利用いただける「開かれた銀行」をめざし、地元の高校生にデザインと植樹をご協力いただいた「屋上庭園」や、地域の皆さまが絵画展などを開催できる「コミュニケーションスペース」を設けています。

また、環境面にも配慮し、太陽光発電とLED照明の導入により、単位面積当たりの二酸化炭素排出量を旧店舗に比べ約1/3削減しました。

お客さまからは、「明るく、緑もあって和やか」「憩いの場所になりそう」といった声をいただいています。



屋上庭園

## 日本マスタートラスト信託銀行開業10周年

平成22年5月、MUFGグループの日本マスタートラスト信託銀行が開業10周年を迎えました。

日本マスタートラスト信託銀行は、三菱UFJ信託銀行が日本生命保険、明治安田生命保険などと共同で設立した資産管理専門の信託銀行です。お客さまからお預かりした年金や投資信託などの資産を安全に保管するとともに、運用会社などからの指図に基づき、有価証券の売買の決済や議決権行使などの資産管理サービスをご提供しています。

株券電子化などの決済制度の変更や、新興国の株式・金融派生商品など多様化した運用資産への管理ニーズにお応えする高度な専門性、先進的なシステムの構築に強みを持ち、平成12年5月の開業当初45兆円だった資産管理残高は、国内最大級の330兆円（平成22年3月末現在）まで拡大しました。今後もサービスの拡充に努め、資産管理分野でのリーディング・バンクをめざしていきます。



MUFGグループは、「地球環境問題への対応」と「次世代社会の担い手育成」に重点を置いて、社会貢献活動に取り組んでいます。その一例をご紹介します。

## 環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」

MUFGグループは、社団法人日本ユネスコ協会連盟と共同で、自然環境や文化財を人類共通の「たからもの」として未来へ引き継いでいくための環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」に取り組んでいます。このプロジェクトでは、植樹活動のほか、自然を愛する心をはぐくみ、身近な自然の素晴らしさを再発見する機会として児童絵画コンクールの開催などを行っています。

この一環として、平成22年6月には、世界自然遺産の白神山地周辺で、MUFGグループの社員が地元の方々とともに植樹活動を行いました。同地域において5年間で10万本の植樹をめざしています。



また、平成22年8月には、児童絵画コンクールで最優秀賞を受賞した

児童とそのご家族を青森県にご招待し、「こども自然体験教室」を開催しました。白神山地周辺での植樹をはじめ、七里長浜海岸での地引網漁や清掃活動などを行いました。参加した子どもたちからは、「さまざまな生き物が共存していること、私たち人間は豊かな自然の恩恵を受けていることを実感した」「自然を傷つけないように大切にしようと思った」などの感想が寄せられました。



「立派なヒバになってね」との願いを込めて植樹



地引網漁を体験



## 就業体験プログラム「ジョブシャドウ」を実施

平成22年7月、MUFGグループは、今年で4回目となる「ジョブシャドウ」を実施しました。

「ジョブシャドウ」とは、子どもたちが、仕事をしている人と「影」のように一緒に行動し、仕事の楽しさや厳しさを体験するもので、今後の進路や職業選択に役立てることを目的とした教育プログラムです。

当日は、東京都教育委員会の公募で選ばれた都立高校生102名が、MUFGグループ各社の職場に分かれ、社員と一緒に会議に出席するなど仕事の現場を体験しました。参加した生徒たちからは、「進路を考える上で大変勉強になった」「仕事でもチームワークが大切なことを学べた」などの感想が寄せられました。



初めての名刺交換



## 「アジア地域の次世代担い手研修」を実施

MUFGグループは、財団法人オイスカ\*とともに「アジア地域の次世代担い手研修」を実施しています。

この研修は、アジアの開発途上国の若者たちを財団法人オイスカの研修所に迎え入れ、1年間、組織運営や環境保全型の有機農業技術を学んでもらおうというものです。3回目となる今年度は、カンボジア、ミャンマー、モンゴル、フィリピンなどから計9名を迎えています。

平成22年7月には、MUFGグループの社員が研修所を訪れ、農作業を一緒に行うなど研修生と交流を深めました。

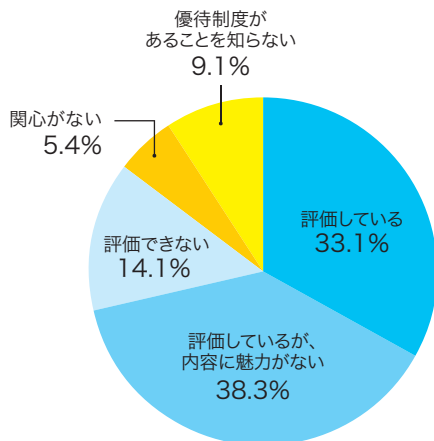
\*財団法人オイスカ：昭和44年設立の国際NGO(非営利組織)。主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全運動を展開しています。



# 株主アンケート結果のご報告

「株主の皆さまへ 第5期第3四半期」(平成22年3月発行)のアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケート結果をご報告します。

## 株主優待制度に対する評価



ご回答いただいた株主の皆さま/回答者数：60,021名(回答率8.5%)

## 皆さまから頂戴した主なご意見

### ■ 現在の優待制度に関して

- ・ 優待制度を今後も続けてほしい
- ・ ピーターラビットのオリジナルグッズの種類を増やしてほしい
- ・ オリジナルグッズは楽しみなので届く時期を早くしてほしい
- ・ サービスの利用手続きをもっと分かりやすくしてほしい
- ・ サービスメニューを充実させてほしい

### ■ 今後ご希望される優待サービスに関して

- ・ 経済セミナーへの招待などを加えてほしい
- ・ 生活により密着したグッズ、サービスにしてほしい
- ・ 社会貢献に関連するサービスを加えてほしい

など

平成23年1月にご提供を開始する次回の優待サービスの内容に関しましては、現在検討を進めています。決定しましたら、当社ホームページでご案内するほか、対象の株主さまには、12月中を目処に株主優待制度関係書類をお送りする予定です。

## 平成22年の株主特典ピーターラビット™オリジナルグッズ 受付終了のお知らせ

平成22年の株主特典ピーターラビット™オリジナルグッズの受付は、終了しました。多くの株主さまからご応募いただき、誠にありがとうございました。

なお、株主さまのご不在・住所不明などの理由により当社に返送されているグッズにつきましては、平成22年9月30日まで保管いたします。あらかじめご了承のほどお願い申し上げます。

また、「ご優待クーポン券」は平成22年12月30日までご利用いただけます。詳細は平成21年12月にお送りしました「ご優待サービスご利用ガイド2010」をご確認くださいますようお願い申し上げます。

**平成22年優待制度の対象株主さま**：平成21年9月30日時点の当社株主名簿に、100株以上保有と記載された株主さま

**ご優待基準日**：毎年9月30日の年1回

## ディスクロージャー誌活用編「MUFGのある暮らし8号」を発行

平成22年7月、MUFGグループの商品・サービスなどをご紹介する冊子「MUFGのある暮らし8号」を発行しました。

今号では、特集として「夢」をテーマに、一般読者の方の記事を掲載しているほか、MUFGグループの社員がグループの商品・サービスを紹介しています。また、相続対策、金融犯罪防止策、ダイレクトバンキングの記事なども掲載しています。

お近くの三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行の窓口で無料配布していますので、ぜひご覧ください。また、MUFGのホームページでもご覧いただけます。



## グループメッセージについて

MUFGグループは「Quality for You」を  
グループメッセージとして、  
お客さまとのさまざまな  
コミュニケーションの場で展開していきます。

# Quality for You

このメッセージには、  
「『質』の高いサービスのご提供を通じて、  
お客さま一人ひとりの生活や一社一社の事業の  
『質』の向上をお手伝いしたい。  
そして、こうした活動を通じて  
地域・社会の発展に貢献していきたい」  
という私たちの想いを込めています。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1

電話03(3240)8111(代表)

URL:<http://www.mufg.jp/>

株式会社に関するお手続きについてご不明な点がございましたら、  
以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。  
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター  
電話：0120-232-711(通話料無料)  
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)